

講義コード	U920100101	科目ナンバリング	U920100101
講義名	生涯学習概論（学芸員）		
副題	学芸員資格取得のための生涯学習入門		
英文科目名	Lifelong Education		
担当者名	望月 厚志		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 中央－405		

授業概要

生涯学習全般について理解を深めるとともに、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員の学芸員として活躍するのに必要な考え方や知識、能力の基礎を培うことを目的としている。そのため、生涯学習に関する総論的な内容と各論的な内容で構成され、生涯学習の理念、生涯学習論、生涯学習政策(史)、学習社会論、生涯学習と博物館を中心にして講義を行う。また、印刷資料だけでなく、映像資料を使用して、生涯学習の実践事例を視覚的・多角的に理解する。この授業を通して、これまでの自らの被教育体験を振り返り、今後の自分自身の「生き方」を探ることもこの授業の目的である。さらに、授業を通じて、各種資料の扱い方を学ぶ。

到達目標

この講義の到達目標は、次の4点である。1.生涯学習に関する理論的な理解ができる。2.我が国の生涯学習の歴史的な流れと実践事例を理解することができる。3.生涯学習社会での博物館・学芸員の役割と課題を理解できる。4.これらを基に自分自身のキャリアを考えることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	生涯学習とは何か ―①本講義のガイダンスと授業計画(シラバス使用)②現状の概略と定義(印刷資料・VTR資料使用)
第2回	生涯学習の理念(1)―生涯学習論の登場(印刷資料使用)
第3回	生涯学習の理念(2)―生涯学習論の源流(1)ヨーロッパでの動向(印刷資料・VTR資料使用)
第4回	生涯学習の理念(3)―生涯学習論の源流(2)日本での動向(印刷資料使用)
第5回	生涯学習の理念(4)―生涯学習論の展開―ユネスコにおける動向(印刷資料・VTR資料使用)
第6回	生涯学習論の展開と教育実践 ―高齢者問題と生涯学習(印刷資料・VTR資料使用)
第7回	日本の生涯学習政策(1)―1970年代の展開(印刷資料・VTR資料使用)
第8回	日本の生涯学習政策(2)―1980年代の展開(印刷資料使用)
第9回	日本の生涯学習政策(3)―1990年代から現代までの展開(印刷資料使用)
第10回	学習社会論―R.ハッチンスの「学習社会論」からユネスコの「未来の学習」(印刷資料使用)
第11回	生涯学習の現状と課題 ―生涯学習とボランティア(施設ボランティア) (印刷資料・VTR資料使用)
第12回	生涯学習の現代的な課題(1)―生涯学習と博物館・学芸員、博学連携(印刷資料・VTR資料使用)
第13回	生涯学習の現代的な課題(2)―生涯学習社会における成人教育の理論とその実践(印刷資料・VTR資料使用)
第14回	生涯学習の現代的な課題(3)―生涯学習社会における博物館のキャリア教育(印刷資料・VTR資料使用)
第15回	今後の「生涯学習」を考える―講義全体のまとめと今後の学習課題の提示

授業計画コメント

学習の状況によって多少順番や内容が変わるかもしれません。

授業方法

印刷資料と映像資料を併用して講義形式で授業を行う。映像資料は、授業時間内での提示のみなので注意をすること。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの各講義の内容に関係する箇所を読んでおくこと。読む箇所は、授業時に指示する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	試験はしません。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト	0 %	試験はしません。
レポート	60 %	試験はしません。
小テスト	30 %	主に、映像資料に関する小レポート
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	出席をとります。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学習課題及び各講義後で出される課題レポート:40%、最終課題レポート(60%)に基づき総合的に判断する。その際、到達目標が評価の基準となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講生の授業後のコメントの内容をもとに、次の授業時間の冒頭に解説・補充説明をする。

教科書

生涯学習と学習社会の創造:現代学校教育の高度化6,佐藤晴雄・望月厚志・柴田彩千子,学文社,初版,2013,9784762023316

教科書コメント

授業時に使用しますので、できるだけ入手してください。

参考文献

現代生涯学習全集,岡本包治,ぎょうせい

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

受講学生の方との連絡・質問等につきましては、授業終了後、教室並びに非常勤講師室にて対応します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920100102	科目ナンバリング	U920100102
講義名	生涯学習概論（学芸員）		
副題	学芸員資格取得のための生涯学習入門		
英文科目名	Lifelong Education		
担当者名	望月 厚志		
単位	2	配当年次	学部 1年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 中央－303		

授業概要

生涯学習全般について理解を深めるとともに、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員の学芸員として活躍するのに必要な考え方や知識、能力の基礎を培うことを目的としている。そのため、生涯学習に関する総論的な内容と各論的な内容で構成され、生涯学習の理念、生涯学習論、生涯学習政策(史)、学習社会論、生涯学習と博物館を中心にして講義を行う。また、印刷資料だけでなく、映像資料を使用して、生涯学習の実践事例を視覚的・多角的に理解する。この授業を通して、これまでの自らの被教育体験を振り返り、今後の自分自身の「生き方」を探ることもこの授業の目的である。さらに、授業を通じて、各種資料の扱い方を学ぶ。

到達目標

この講義の到達目標は、次の4点である。1.生涯学習に関する理論的な理解ができる。2.我が国の生涯学習の歴史的な流れと実践事例を理解することができる。3.生涯学習社会での博物館・学芸員の役割と課題を理解できる。4.これらを基に自分自身のキャリアを考えることができる。

授業内容

実施回	内容
第1回	生涯学習とは何か ―①本講義のガイダンスと授業計画(シラバス使用)②現状の概略と定義(印刷資料・VTR資料使用)
第2回	生涯学習の理念(1)―生涯学習論の登場(印刷資料使用)
第3回	生涯学習の理念(2)―生涯学習論の源流(1)ヨーロッパでの動向(印刷資料・VTR資料使用)
第4回	生涯学習の理念(3)―生涯学習論の源流(2)日本での動向(印刷資料使用)
第5回	生涯学習の理念(4)―生涯学習論の展開―ユネスコにおける動向(印刷資料・VTR資料使用)
第6回	生涯学習論の展開と教育実践 ―高齢者問題と生涯学習(印刷資料・VTR資料使用)
第7回	日本の生涯学習政策(1)―1970年代の展開(印刷資料・VTR資料使用)
第8回	日本の生涯学習政策(2)―1980年代の展開(印刷資料使用)
第9回	日本の生涯学習政策(3)―1990年代から現代までの展開(印刷資料使用)
第10回	学習社会論―R.ハッチンスの「学習社会論」からユネスコの「未来の学習」(印刷資料使用)
第11回	生涯学習の現状と課題 ―生涯学習とボランティア(施設ボランティア) (印刷資料・VTR資料使用)
第12回	生涯学習の現代的な課題(1)―生涯学習と博物館・学芸員、博学連携(印刷資料・VTR資料使用)
第13回	生涯学習の現代的な課題(2)―生涯学習社会における成人教育の理論とその実践(印刷資料・VTR資料使用)
第14回	生涯学習の現代的な課題(3)―生涯学習社会における博物館のキャリア教育(印刷資料・VTR資料使用)
第15回	今後の「生涯学習」を考える―講義全体のまとめと今後の学習課題の提示

授業計画コメント

学習の状況によって多少順番や内容が変わるかもしれません。

授業方法

印刷資料と映像資料を併用して講義形式で授業を行う。映像資料は、授業時間内での提示のみなので注意をすること。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

テキストの各講義の内容に関係する箇所を読んでおくこと。読む箇所は、授業時に指示する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	0 %	試験はしません。
中間テスト	0 %	試験はしません。
レポート	60 %	試験はしません。
小テスト	30 %	主に、映像資料に関する小レポート
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	出席をとります。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学習課題及び各講義後で出される課題レポート:40%、最終課題レポート(60%)に基づき総合的に判断する。その際、到達目標が評価の基準となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

受講生の授業後のコメントの内容をもとに、次の授業時間の冒頭に解説・補充説明をする。

教科書

生涯学習と学習社会の創造:現代学校教育の高度化6,佐藤晴雄・望月厚志・柴田彩千子,学文社,初版,2013,9784762023316

教科書コメント

授業時に使用しますので、できるだけ入手してください。

参考文献

現代生涯学習全集,岡本包治,ぎょうせい

参考文献コメント

授業時に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

受講学生の方との連絡・質問等につきましては、授業終了後、教室並びに非常勤講師室にて対応します。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920101101	科目ナンバリング	U920101101
講義名	博物館概論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Introduction		
担当者名	岩崎 均史		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 月曜日 3時限 中央－403		

授業概要

博物館に関する基礎的情報を講義し、博物館をとりまく状況の基礎知識を理解させる。加えて、各専門単元へ進む基礎能力を養う。

到達目標

学生が、博物館に関する基礎情報を理解することにより、博物館に対する専門的着目点・視点を獲得することができる

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション、授業の進め方など
第2回	上野公園物語（日本の近代博物館史の箱庭としての上野について）その1
第3回	上野公園物語（日本の近代博物館史の箱庭としての上野について）その2
第4回	国立博物館について（種類と設置）
第5回	国立博物館について（運営／旧体制と特殊法人）
第6回	博物館学の目的
第7回	博物館学の方法・構成
第8回	博物館関係法（1）
第9回	博物館とは、その概念（1、定義・種類）
第10回	博物館とは、その概念（2、目的・機能）
第11回	学芸員とは何か（法による規定・役割）
第12回	学芸員とは何か（仕事・現状）
第13回	学芸員の現状と欧米及び比将来展望
第14回	博物館の現状・授業の総括
第15回	予備日

授業計画コメント

単元終了ごとにレスポンスペーパー作成を求めます

授業方法

博物館に関する基礎的情報を講義し、博物館をとりまく状況の基礎知識を理解させる。授業では博物館法持参の事。

使用言語

日本語

準備学習（予習・復習）

なるべく、博物館・美術館などを訪れる機会を多くして、漠然とした見学ではなく、テーマを自ら設定するなどして施設を見る目を養う

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分（％）	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):35% 小テスト:10% 出席／レポート／レスポンスペーパー等:35% レポート:20% コメントペーパーの提出も成績に加味する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバック

レポート、レスポンスペーパー、コメントペーパーの内容等について、授業内の議論を通じてフィードバックする。

参考文献コメント

授業時に指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920101102	科目ナンバリング	U920101102
講義名	博物館概論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Introduction		
担当者名	池田 宏		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 火曜日 2時限 南3－401		

授業概要

博物館に関する基礎的な情報を述べ、博物館・美術館の成り立ちや現状、学芸員の仕事について理解を深める。

到達目標

博物館とはどのような施設であるかを理解する。
学芸員がどのような仕事をしているかを理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション。授業の進め方について説明する。
第2回	学芸員の仕事
第3回	日本の博物館前史
第4回	日本の博物館史1
第5回	日本の博物館史2
第6回	日本の博物館史3
第7回	外国の博物館史
第8回	博物館の定義・博物館法
第9回	博物館の種類1
第10回	博物館の種類2
第11回	博物館の機能1
第12回	博物館の機能2
第13回	博物館の組織
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業方法

学芸員資格を取得するため博物館と学芸員に関する基礎的な知識を学ぶ科目である。社会のなかで博物館やそこに勤務する学芸員の役割、国内外の博物館の歴史や現状について授業を進める。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業内容を振り返って、内容を整理する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	80 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーや授業中の小テストで、理解度を確認する。

参考文献コメント

参考文献は授業時に指示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920102101	科目ナンバリング	U920102101
講義名	博物館経営論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Museum Management		
担当者名	岩崎 均史		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 3時限 中央－403		

授業概要

ミュージアムマネジメント(博物館経営)に関する基礎事項を講義する。設置状況により異なる管理運営形態が存在することを理解する。各運営形態によりどのような問題が存在するかを把握し、ミュージアムマネジメントの基礎的な能力を養う。

到達目標

博物館のマネジメントの基礎事項を学習することで、実際に現場を見学することに加え、新聞報道などメディア情報から博物館の抱える問題点を抽出することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション 授業の進め方など
第2回	ミュージアムマネジメントとは
第3回	博物館の設置・運営・経営(国公立)
第4回	博物館の設置・運営・経営(私立・法人立)
第5回	各博物館の形態別運営基盤とは 公立の行財政・私立の経費など
第6回	博物館法再検討・博物館の登録
第7回	博物館と関連法律(博物館法)
第8回	博物館と関連法律(文化財保護法)
第9回	博物館と関連法律(著作権法他・博物館の倫理)
第10回	博物館の評価(組織と職員の評価)
第11回	組織と職員(博物館の中の人々)・博物館と利用者(広報・マーケティング・ミュージアムショップ)
第12回	博物館と社会(地域との関係・他館との連携・ボランティア)
第13回	博物館と危機管理 博物館と災害(危機管理と過去の教訓・文化財レスキュー事業)
第14回	指定管理者制度(博物館の存在意義)・授業のまとめ
第15回	予備日

授業計画コメント

単元終了ごとに、レスポンスペーパー作成を求めます。

授業方法

国立・公立・私立(含各法人立)による経営の違いを示し、各経営基盤と財政・予算等に関して例を示し理解を促す。合わせて施設の整備、博物館の評価、危機管理など現状に即した経営側の問題点を抽出し講義を行う。理想と現実に大きな狭間が存在するが、いかにそれを埋めていくかを考えていく。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

施設を見学する場合、運営する立場での視点で施設や展示・企画などを見てきてほしい

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	
小テスト	10 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	35 %	
その他(備考欄を参照)	35 %	

成績評価コメント

平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):35% 小テスト:10% 出席／レポート／レスポンスペーパー等:35% レポート:20%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート、レスポンスペーパー、コメントペーパーの内容等について、授業内の議論を通じてフィードバックする。

参考文献コメント

授業時に示す

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。博物館法持参(必要時に指示)。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920102102	科目ナンバリング	U920102102
講義名	博物館経営論（学芸員）		
副題	博物館の運営・収支とは		
英文科目名	Museology: Museum Management		
担当者名	森谷 美保		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 3時限 西2－403		

授業概要

学芸員に必要なとされる博物館運営と、展覧会開催に関わる経費の実態について、基礎的な知識を学ぶ。

到達目標

博物館の運営について理解し、経営に関する基礎的な情報を得る。

授業内容

実施回	内容
第1回	はじめに:授業の概要について
第2回	博物館の運営①国公立の場合
第3回	博物館の運営②企業による私立美術館
第4回	博物館の運営③学校法人と宗教法人
第5回	博物館の運営④指定管理者制度
第6回	企画展覧会の開催経費とは
第7回	展覧会収入①入場者数と入館料
第8回	展覧会収入②図録、刊行物について
第9回	展覧会収入③ミュージアムショップ
第10回	展覧会支出①美術品輸送、保険、会場設営
第11回	展覧会支出②宣伝・広告費とは
第12回	展覧会支出③その他の必要経費
第13回	博物館運営の問題
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業計画コメント

授業開始時に開催中の展覧会について取り上げる

授業方法

パワーポイントによる講義形式、必要なプリントを毎回配布する

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業ごとに次の回の概要を伝えるので、必要な準備学習を行うこと

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は毎回配布するコメントペーパーなどにより評価

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポート提出後、次回授業内で講評を行う

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920103101	科目ナンバリング	U920103101
講義名	博物館資料論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Museum Material		
担当者名	岩壁 義光		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西2－303		

授業概要

博物館の最も重要な構成要素である博物館資料について、その歴史的背景、具体的な資料の諸相、収集と活用、博物館資料化へのプロセス、調査研究の実例などを画像・映像を挙げて講義する。

到達目標

博物館における資料の調査、収集、整理、研究の論理と方法を中心に、博物館資料に関する基礎的知識を習得し、博物館資料への理解、取り扱う能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	自己紹介 オリエンテーション(各回の授業内容と進め方を紹介する)
第2回	博物館資料と歴史的背景① 世界の博物館発達史と博物館資料の認識・意義について
第3回	博物館資料と歴史的背景② 日本における博物館資料と近代日本における博物館の発達
第4回	博物館法と博物館資料 博物館法を通じて今日の日本の博物館資料の考え方を学ぶ
第5回	博物館資料の諸相① 博物館資料とは具体的にどのようなものを学ぶ ―一次資料とは何か―
第6回	博物館資料の諸相② 博物館資料とは具体的にどのようなものを学ぶ ―二次資料、博物館学的資料とは何か―
第7回	博物館見学 多様な博物館資料の実態を学芸員の視点から考える
第8回	博物館資料の収集① 資料の収集理念と収集の諸形態を学ぶ
第9回	博物館資料の収集② 資料収集の課題
第10回	見学会 博物館資料としての音声・映像資料の収集と活用、課題を学ぶ
第11回	博物館資料の調査・研究 博物館における調査研究の方法を実例から考える
第12回	博物館資料の取り扱い 博物館資料の輸送・搬入・保管
第13回	博物館資料化へのプロセス 調書と登録、
第14回	博物館資料と情報 博物館の資料情報の記録化と公開、課題
第15回	到達度確認

授業方法

授業は事前にG-Portで配布するレジュメを用い、具体的事例を画像・映像を多用して行う。レジュメは各自プリントアウトして持参すること。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

G-Portからプリントアウトしたレジュメは、必ず事前に目を通して授業に臨むこと。授業は画像・映像を中心に進めるので、レジュメを通読しておかないと理解度が落ちる。また、内容が多岐にわたるので復習を欠かさないこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	レポートは2回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価は期末試験とレポートの合算でおこなう。校外見学に参加出来ない学生は、各自で見学し課題レポートを作成して提出すること。レポート未提出は評価のハンディーとなるので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートおよび試験の結果について、特に問題が生じた場合は個別にメールで連絡する。

教科書コメント

教科書は特に定めず、事前にG-Portで配布するレジュメや、授業内で配付する資料を用いる。

参考文献

『博物館資料論』: 新版博物館学講座第5巻,加藤有次ほか,雄山閣,新,1999,4-639-01616-6

『新訂 博物館資料論』,佐々木 利和・湯山 賢一・本多 俊和,放送大学教育振興会,初,2008,978-4-595-30825-3

参考文献コメント

参考文献は各テーマごとに授業内で紹介する。

その他

レポートはemailの添付ファイルにより提出いただくので、フィードバックは返信メールで行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920103102	科目ナンバリング	U920103102
講義名	博物館資料論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Museum Material		
担当者名	岩壁 義光		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 月曜日 5時限 西2－405		

授業概要

博物館の最も重要な構成要素である博物館資料について、その歴史的背景、具体的な資料の諸相、収集と活用、博物館資料化へのプロセス、調査研究の実例などを画像・映像を挙げて講義する。

到達目標

博物館における資料の調査、収集、整理、研究の論理と方法を中心に、博物館資料に関する基礎的知識を習得し、博物館資料への理解、取り扱う能力を身につける。

授業内容

実施回	内容
第1回	自己紹介 オリエンテーション(各回の授業内容と進め方を紹介する)
第2回	博物館資料と歴史的背景① 世界の博物館発達史と博物館資料の認識・意義について
第3回	博物館資料と歴史的背景② 日本における博物館資料と近代日本における博物館の発達
第4回	博物館法と博物館資料 博物館法を通じて今日の日本の博物館資料の考え方を学ぶ
第5回	博物館資料の諸相① 博物館資料とは具体的にどのようなものを学ぶ ―一次資料とは何か―
第6回	博物館資料の諸相② 博物館資料とは具体的にどのようなものを学ぶ ―二次資料、博物館学的資料とは何か―
第7回	博物館見学 多様な博物館資料の実態を学芸員の視点から考える
第8回	博物館資料の収集① 資料の収集理念と収集の諸形態を学ぶ
第9回	博物館資料の収集② 資料収集の課題
第10回	見学会 博物館資料としての音声・映像資料の収集と活用、課題を学ぶ
第11回	博物館資料の調査・研究 博物館における調査研究の方法を実例から考える
第12回	博物館資料の取り扱い 博物館資料の輸送・搬入・保管
第13回	博物館資料化へのプロセス 調書と登録、
第14回	博物館資料と情報 博物館の資料情報の記録化と公開、課題
第15回	到達度確認

授業方法

授業は事前にG-Portで配布するレジュメを用い、具体的事例を画像・映像を多用して行う。レジュメは各自プリントアウトして持参すること。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

G-Portからプリントアウトしたレジュメは、必ず事前に目を通して授業に臨むこと。授業は画像・映像を中心に進めるので、レジュメを通読しておかないと理解度が落ちる。また、内容が多岐にわたるので復習を欠かさないこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	80 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	レポートは2回
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

成績評価は期末試験とレポートの合算でおこなう。校外見学に参加出来ない学生は、各自で見学し課題レポートを作成して提出すること。レポート未提出は評価のハンディーとなるので注意すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートおよび試験の結果について、特に問題が生じた場合は個別にメールで連絡する。

教科書コメント

教科書は特に定めず、事前にG-Portで配布するレジュメや、授業内で配付する資料を用いる。

参考文献

『博物館資料論』: 新版博物館学講座第5巻,加藤有次ほか,雄山閣,新,1999,4-639-01616-6

『新訂 博物館資料論』,佐々木 利和・湯山 賢一・本多 俊和,放送大学教育振興会,初,2008,978-4-595-30825-3

参考文献コメント

参考文献は各テーマごとに授業内で紹介する。

その他

レポートはemailの添付ファイルにより提出いただくので、フィードバックは返信メールで行う。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920104101	科目ナンバリング	U920104101
講義名	博物館資料保存論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Preservation of Material		
担当者名	長佐古 真也		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 土曜日 2時限 南1－202		

授業概要

公共性を有し、また研究活動の基礎ともなる「資料」。その資料を保存することの意味について考えた後、資料素材毎の性質やそれを取り巻く環境の特徴、それらに基づく保存や修復の方法等について学びます。

到達目標

資料を素材の視点で捉え直し、周囲の環境に気を配る。すなわち、資料を後世に長く伝えるための基本的素養を身につけることで、課題に対し自分自身で判断し対処する力と、資料を扱う者の持つべき理念も育みます。

授業内容

実施回	内容
第1回	「資料」および「保存」の理念について
第2回	資料素材を知る(1) 有機物1／木材
第3回	資料素材を知る(2) 有機物2／紙・繊維等
第4回	資料素材を知る(3) 有機物3／樹脂・染料等
第5回	資料素材を知る(4) 無機物1／金属
第6回	資料素材を知る(5) 無機物2／金属の腐食
第7回	資料素材を知る(6) 無機物3／その他の無機物、データ等
第8回	資料の劣化要因と対応(1) 温湿度
第9回	資料の劣化要因と対応(2) 空気環境
第10回	資料の劣化要因と対応(3) 室内環境の制御等
第11回	資料の劣化要因と対応(4) 光
第12回	資料の劣化要因と対応(5) 生物被害とIPM
第13回	劣化資料の修復
第14回	危機管理とリスクマネジメント、資料保存の将来
第15回	総括

授業方法

講義形式で行います。このため、毎回配布するリアクションペーパーは重要なコミュニケーションツールとなります。活用を心掛けて下さい。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

内容が多岐にわたり、かつ毎回盛り沢山なので、配布した資料を元に欠かさず復習して下さい。(約1時間)万が一欠席した場合は、配布資料等で必ず自習しておいて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	60 %	基本的な知識に加え、応用力を問う内容です。
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	40 %	出席状況、コメントの内容
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

学期末試験を主としますが、出席状況も重視します。また、各回のコメント内容等も加味します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回寄せられるコメントについては、有意義なものを抜粋し、次の回に配布し、全員で共有します。

教科書コメント

講義内容全体を網羅する書籍がないことから、教科書は定めず、講義内で配布する資料を中心に授業を進めます。

参考文献

博物館資料保存論,石崎武志 編著,講談社,2012,9784061565036
 博物館資料の保存環境,東京文化財研究所 変,中央公論美術出版,2011,9784805506486

参考文献コメント

上記2冊は、準教科書的内容を有する参考書です。この他、講義内容に沿った参考文献に関しては、当該講義内にてご案内します。

その他

初回の講義は特に重要な事項を解説しますので、可能な限り出席して下さい。 短期間で多くのことを学びますので、極力欠席・遅刻をしないよう留意して下さい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920104102	科目ナンバリング	U920104102
講義名	博物館資料保存論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Preservation of Material		
担当者名	荒木 臣紀		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 土曜日 1時限 西5－301		

授業概要

博物館における文化財の「収集・保存」と「展示・活用」において昨今重要性が増しているプリベンティブ・コンサーベーションの重点構成項目である温度、湿度、虫、黴、光、輸送などに考察をする。また、調査と文化財修理についてもについて保存科学的視点を取り入れて考える。講義の後半には、現在の保存担当者にとって必須となった資料保存とデジタルアーカイブについて議論を行う。授業では各項目についてグループ内でのディスカッション、クラス内でのプレゼンテーションとディスカッションを行い、博物館資料保存論を通じて社会教育に関する視野を広げる。

到達目標

学芸員として博物館に勤務を始めても周囲と協調して慌てず活動ができる基礎的な能力を身につけながら、文化財の「保存」と「活用」について自立した考えの核を作る。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	温湿度管理 講義、グループ・ディスカッション
第3回	温湿度管理 演習、クラス・ディスカッション
第4回	現地実習(学習院大学史料館)
第5回	生物対策 講義、グループ・ディスカッション
第6回	生物対策 演習、クラス・ディスカッション
第7回	空気環境 講義、グループ・ディスカッション
第8回	空気環境 演習、クラス・ディスカッション
第9回	博物館見学(東京国立博物館を予定)
第10回	文化財の調査、講義:科学調査について。
第11回	文化財の調査 演習(調査票の作成)、グループ・ディスカッション
第12回	文化財の修理について、講義
第13回	記録メディアの保存とデジタルデータの関係について、講義、、クラス・ディスカッション
第14回	13回目までの内容に含まれなかった課題や新たに生じた課題に関するディスカッション
第15回	グループごとに年間のまとめを行い、プレゼンテーションを行う。

授業方法

グループワークを中心に行うが、講義(博物館での講義含む)も適宜混ぜて行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

受講時まで、できるだけ多くの博物館、美術館、史料館、資料館の展示を見る。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	

成績評価コメント

制作物

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

参考情報を添えてコメントする。

その他

博物館、美術、歴史、文化に興味関心があること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920105101	科目ナンバリング	U920105101
講義名	博物館展示論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Exhibition		
担当者名	池田 宏		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 水曜日 2時限 中央－303		

授業概要

博物館で来館者が目にするのは、展示である。よい展示をおこなうためには、展示作品の理解をもとに、展示の形態や方法、展示ケース、作品の解説などに対する知識が必要となる。具体的な展示の事例を紹介しながら、美術工芸品を中心とした展示について考え、展示に対する意識をたかめる。

到達目標

国内、海外の展示方法について具体的に学び、見る側から見せる側の発想ができるようにする

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:授業の進め方について
第2回	展示の歴史と種類
第3回	常設展と特別展
第4回	展示ケース
第5回	題箋・解説
第6回	画像・照明
第7回	絵画・書跡・歴史資料の展示
第8回	工芸品の展示1(陶磁・漆工・染織)
第9回	工芸品の展示2(刀剣・甲冑)
第10回	東京国立博物館の展示
第11回	美術館の展示、展示企画書の作成
第12回	海外の展覧会1(メトロポリタン美術館、トプカプ宮殿)
第13回	海外の展覧会2(ワシントン・ナショナル・ギャラリー)
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業方法

講義の後、関連の画像を見せながら説明をする

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の内容を振り返り、整理、復習をする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	80 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーや小テストで、理解度を確認する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

博物館概論を履修した後に、履修することが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920105102	科目ナンバリング	U920105102
講義名	博物館展示論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Exhibition		
担当者名	池田 宏		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 火曜日 2時限 南3－401		

授業概要

博物館で来館者が目にするのは、展示である。よい展示をおこなうためには、展示作品の理解をもとに、展示の形態や方法、展示ケース、作品の解説などに対する知識が必要となる。具体的な展示の事例を紹介しながら、美術工芸品を中心とした展示について考え、展示に対する意識をたかめる。

到達目標

国内、海外の展示方法について具体的に学び、見る側から見せる側の発想ができるようにする

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:授業の進め方について
第2回	展示の歴史と種類
第3回	常設展と特別展
第4回	展示ケース
第5回	題箋・解説
第6回	画像・照明
第7回	絵画・書跡・歴史資料の展示
第8回	工芸品の展示1(陶磁・漆工・染織)
第9回	工芸品の展示2(刀剣・甲冑)
第10回	東京国立博物館の展示
第11回	美術館の展示、展示企画書の作成
第12回	海外の展覧会1(メトロポリタン美術館、トプカプ宮殿)
第13回	海外の展覧会2(ワシントン・ナショナル・ギャラリー)
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業方法

講義の後、関連の画像を見せながら説明をする

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業の内容を振り返り、整理、復習をする。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト	80 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

リアクションペーパーや小テストで、理解度を確認する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席すること。

その他

博物館概論を履修した後に、履修することが望ましい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920106101	科目ナンバリング	U920106101
講義名	博物館情報・メディア論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Media and Information		
担当者名	森谷 美保		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 中央－303		

授業概要

進化する現代社会の中で、博物館における展示及び展覧会、収蔵品管理、広報活動など、情報を発信する手段は年々変化している。インターネットや資料のデータベース化も、効率的に活用できる反面、著作権や個人情報の取り扱いなど問題点も多い。博物館・美術館での情報発信の現状と問題点を概説し、博物館業務、運営に必要な基礎的な能力を学ぶ授業となる。

到達目標

博物館の情報発信の意義と活用方法、問題点を学び、博物館運営に必要な知識を得ることが出来る。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業の概要:博物館・美術館と情報メディア
第2回	博物館とメディアの関係①その歴史
第3回	博物館とメディアの関係②現状について
第4回	博物館の情報化:教育普及活動とは
第5回	博物館の広報活動①宣伝の手法
第6回	博物館の広報活動②展覧会の場合
第7回	情報発信の手段①展覧会図録について
第8回	情報発信の手段②収蔵品カタログについて
第9回	知的財産①:博物館と著作権
第10回	知的財産②:著作権と個人情報
第11回	博物館における情報発信:情報管理と機器の活用
第12回	デジタルアーカイブの現状とインターネットの活用
第13回	資料のドキュメンテーションとデータベースについて
第14回	授業のまとめ
第15回	予備日

授業計画コメント

授業開始時に開催中の展覧会について取り上げる

授業方法

パワーポイントによる講義形式。必要なプリントを毎回用意する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業ごとに次回の概要を伝えるので、必要な準備学習を行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	授業内での小レポート
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小レポートや、レポート提出後、次回授業内で講評を行う

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920106102	科目ナンバリング	U920106102
講義名	博物館情報・メディア論（学芸員）		
英文科目名	Museology: Media and Information		
担当者名	荒川 正明		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 水曜日 2時限 南3－103		

授業概要

博物館では近年、ICTの目覚ましい発達を受けて、これをいかに展示および研究・教育、あるいは広報活動に活かしていくか、きわめて重要な課題となっている。展示における映像の活用、研究分野における資料の蓄積や活用および公開、インターネットなどによる教育普及など、様々な有効な手段が考えられる。展示公開だけが主なる情報発信であった旧来型ではなく、新たに各種の情報を様々な方法で公開して資料の共有化をすすめ、文化を育む施設としての責務を果たすことが求められていることについて学ぶ授業とする。

到達目標

博物館活動におけるメディア活用の重要性を理解する

授業内容

実施回	内容
第1回	博物館の情報 その理論と歴史
第2回	研究資料の保存(1):博物館資料のドキュメンテーションとデータベース
第3回	研究資料の保存(2):ドキュメンテーションとデータベースの実際
第4回	資料情報の活用(1):情報の公開、デジタルアーカイブの実際
第5回	資料情報の活用(2):情報の管理、知的財産と個人情報
第6回	インターネットと博物館・美術館(1):各博物館の活用とその効果
第7回	インターネットと博物館・美術館(2):活用の可能性を探る
第8回	広報と出版活動(1):メディアと印刷
第9回	広報と出版活動(2):博物館における出版活動の実際
第10回	広報と出版活動(3):広報用印刷物の作成と検討
第11回	展示における映像(1):博物館教育とメディア
第12回	展示における映像(2):映像の効果と活用の展望
第13回	博物館見学
第14回	〃
第15回	まとめ 博物館における情報とメディア

授業方法

パワーポイントを主体とした講義、および参加者の発表を随時行っていく

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業前の予習、および終了後の復習を行っていただきたい

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	40 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	

成績評価コメント

平常点およびレポート、毎回のコメントを加点対象とする 平常点(クラス参加、グループ作業の成果等):60% レポート:40%

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業時に指示する

教科書コメント

適宜、授業時に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示する

履修上の注意

授業時に指示する

その他

授業時に指示する

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920107101	科目ナンバリング	U920107101
講義名	博物館教育論（学芸員）		
副題	博物館と人をつなぐもの		
英文科目名	Museology: Museum Education		
担当者名	山本 雅美		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 中央－404		

授業概要

この授業は、博物館における教育活動について理論と実践を学ぶ科目である。国内外の教育活動の歴史や現状について学び、現代社会や地域における博物館の役割を考察する。ディスカッションやグループワークをとおして自ら体験し学ぶ授業になるため、積極的な参加を期待する。

到達目標

授業を通して博物館における教育活動の基盤となる理論や実践を理解することで、学芸員として実践の場で必要とされる基礎的な能力を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:授業の進め方、自己紹介、授業アンケートなど
第2回	概論1:博物館教育論とは ・博物館法における博物館教育について ・学芸員と博物館教育論
第3回	概論2:博物館教育の歴史1 ・国内外における博物館教育の歴史 ・博物館教育の理論
第4回	概論3:博物館教育の歴史2 ・国内外における博物館教育の歴史 ・博物館教育の理論
第5回	見学会:都内の博物館を見学して教育プログラムを体験する
第6回	博物館における学びの意義:ボランティア活動とインターンシップ ・学びの場としての博物館 ・博物館ボランティアの歴史と現状 ・人材育成としてのインターンシップ
第7回	博物館の利用実態と利用者の博物館体験について ・鑑賞プログラムー乳幼児向け／高齢者向けプログラムなど ・鑑賞プログラムを企画するーエデュケーターの役割について
第8回	博物館の利用と学び1 ・博物館と学習指導要領 ・博学連携の実践例
第9回	博物館の利用と学び2 ・芸術鑑賞教育ー対話型鑑賞法／アートカード
第10回	ワークショップ1:教育プログラムを企画する
第11回	ワークショップ2:グループワーク
第12回	ワークショップ3:グループごとの発表
第13回	ワークショップ4:グループごとの発表
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業方法

講義、見学会、ディスカッション、グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時に配布する資料を読むこと
小レポートの提出(2～3回程度を予定)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	小レポート

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小レポートや授業アンケートについては授業時間内にフィードバックをする。ワークショップの発表時にそれぞれのグループについてコメントする。

教科書コメント

授業時に指示する

参考文献コメント

授業時に指示する

履修上の注意

「博物館概論」と「生涯学習概論」を履修後、「博物館教育論」を履修することを推奨する

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920107102	科目ナンバリング	U920107102
講義名	博物館教育論（学芸員）		
副題	博物館と人をつなぐもの		
英文科目名	Museology: Museum Education		
担当者名	山本 雅美		
単位	2	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第2学期 金曜日 5時限 中央－404		

授業概要

この授業は、博物館における教育活動について理論と実践を学ぶ科目である。国内外の教育活動の歴史や現状について学び、現代社会や地域における博物館の役割を考察する。ディスカッションやグループワークをととして自ら体験し学ぶ授業になるため、積極的な参加を期待する。

到達目標

授業を通して博物館における教育活動の基盤となる理論や実践を理解することで、学芸員として実践の場で必要とされる基礎的な能力を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:授業の進め方、自己紹介、授業アンケートなど
第2回	概論1:博物館教育論とは ・博物館法における博物館教育について ・学芸員と博物館教育論
第3回	概論2:博物館教育の歴史1 ・国内外における博物館教育の歴史 ・博物館教育の理論
第4回	概論3:博物館教育の歴史2 ・国内外における博物館教育の歴史 ・博物館教育の理論
第5回	見学会:都内の博物館を見学して教育プログラムを体験する
第6回	博物館における学びの意義:ボランティア活動とインターンシップ ・学びの場としての博物館 ・博物館ボランティアの歴史と現状 ・人材育成としてのインターンシップ
第7回	博物館の利用実態と利用者の博物館体験について ・鑑賞プログラムー乳幼児向け／高齢者向けプログラムなど ・鑑賞プログラムを企画するーエデュケーターの役割について
第8回	博物館の利用と学び1 ・博物館と学習指導要領 ・博学連携の実践例
第9回	博物館の利用と学び2 ・芸術鑑賞教育ー対話型鑑賞法／アートカード
第10回	ワークショップ1:教育プログラムを企画する
第11回	ワークショップ2:グループワーク
第12回	ワークショップ3:グループごとの発表
第13回	ワークショップ4:グループごとの発表
第14回	授業のまとめ
第15回	到達度確認

授業方法

講義、見学会、ディスカッション、グループワーク

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業時に配布する資料を読むこと
小レポートの提出(2～3回程度を予定)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
------	---------	----

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	30 %	
その他(備考欄を参照)	20 %	小レポート

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

小レポートや授業アンケートについては授業時間内にフィードバックをする。ワークショップの発表時にそれぞれのグループについてコメントする。

教科書コメント

授業時に指示する

参考文献コメント

授業時に指示する

履修上の注意

「博物館概論」と「生涯学習概論」を履修後、「博物館教育論」を履修することを推奨する

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920108101	科目ナンバリング	U920108101
講義名	博物館実習（学芸員）		
英文科目名	Museum Practice		
担当者名	鎮西 芳美・坪内 雅美		
単位	3	配当年次	学部 4年
時間割	第1学期 月曜日 5時限 西1－211.第2学期 月曜日 5時限 西1－211		

授業概要

学芸員資格取得の総仕上げとして、これまでに単位を取得してきた博物館に関する科目の知識を実践に移す機会であり、また美術系博物館で働くために必要な実務的知識・技術を養う科目である。知識と技術の習得に留まらず、作品の取り扱い・展覧会企画や多様な利用者・関係者についての議論などを通して学芸員の仕事への理解を深め、見学実習では博物館の施設・各館の現状と課題に直に触れ、美術系博物館と学芸員の仕事についてより深い考察を得る機会とすることを予定している。

到達目標

美術系博物館が置かれている現状をとらえながら、そのなかで学芸員として何をすべきか、業務の一端を実践的な形で学ぶことにより、学芸員の仕事への考察と理解を深めることとする。より具体的には、活動の実例の紹介と分析とともに、見学を含む学内実習等や館園実習での現場体験を通じ、学芸員としての実務的基礎知識や基礎技術の習得を目的とする。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:授業の進め方、自己紹介、事前指導など
第2回	コレクション①作品収集:コレクション形成の意義と具体的な収集活動作品
第3回	コレクション②展示活用:常設展示の意義と実際について
第4回	美術館見学
第5回	コレクション③展示活用:作品貸出の意義と実際について(クーリエ業務)
第6回	コレクション④作品管理:作品の情報管理と物品管理の実際について(作品調書実習)
第7回	コレクション⑤作品管理:作品の情報管理と物品管理の実際について(実例紹介)
第8回	報告発表① 常設展について
第9回	報告発表② 常設展について
第10回	報告発表③ 常設展について
第11回	施設見学
第12回	コレクション⑥実例紹介／博物館全体の広報について
第13回	グループ発表① コレクション展のプラン
第14回	グループ発表② コレクション展のプラン
第15回	第1学期のまとめ
第16回	オリエンテーション:2学期の授業の進め方、レポート及び発表課題など 企画展①:企画展の意義、展覧会場について
第17回	企画展②:企画書、テーマ設定、作品選定、展示構成について
第18回	企画展③:広報、資金調達、予算管理、メンバーシップについて
第19回	見学①:美術館企画展見学(空間と展示、ギャラリーガイド、付帯施設について)
第20回	見学②:ギャラリー企画展見学(美術マーケット、アーティストと画廊について)
第21回	企画展④:カタログ、著作権、関連イベントについて
第22回	教育普及①:ワークショップ体験
第23回	教育普及②:ギャラリーガイド演習
第24回	企画案発表①:グループによる企画プレゼンテーション、質疑応答
第25回	企画案発表②:グループによる企画プレゼンテーション、質疑応答
第26回	企画案発表③:グループによる企画プレゼンテーション、質疑応答
第27回	館園実習報告①:館園実習報告
第28回	館園実習報告②:館園実習報告
第29回	ディスカッション:美術館の未来と可能性について
第30回	1年間のまとめ

授業方法

第1学期は鎮西芳美講師が、第2学期は坪内雅美講師が担当する。授業は講義と演習方式で、個人の発表やグループによる企画立案・討論などを行う。また必要に応じて、美術館等の見学を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

特に必要な場合は適宜指示する。日頃より、美術館を中心とした博物館での展示観賞や各種プログラムへの積極的な参加を望む。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	10 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)	10 %	

成績評価コメント

レポート:授業内容の理解度、実習館での経験の反映、独自の着眼点や発想の有無

平常点:出席率、授業参加への積極性、コメントシートの提出(展覧会見学、美術館博物館活動への参加、授業への要望・質問などを記載)

その他:自主的な活動への意欲

成績は、平常点、レポート等により第1学期・第2学期と合わせて総合的に判断する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に適宜回答する。

教科書コメント

その都度授業で紹介する。

参考文献コメント

その都度授業で紹介する。

その他

履修に際しては、通年授業の他に、学芸員課程事務室主催のガイダンスへの出席及び館園実習への参加が義務となっているので、留意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920108102	科目ナンバリング	U920108102
講義名	博物館実習（学芸員）		
英文科目名	Museum Practice		
担当者名	田中 潤		
単位	3	配当年次	学部 4年
時間割	通年 金曜日 3時限 西2－505		

授業概要

美術系の博物館・美術館における学芸員として、必要とされる基礎的知識・技術を実際の作品や資料に触れることを通じて習得し、確認する。

到達目標

将来に伝えられていく様々な文化財を、より良い形で保存・継承し、また実際に伝えられてきた作品から学ぶことを通じて、身に着けた知識・技術を、展示などを通じていかに社会に還元していくかについて、博物館・美術館および展覧会の見学、実地における資料整理から理解する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション: (授業の進め方・自己紹介・学芸員の業務と心構えについて)
第2回	見学実習① 学習院大学史料館・春の特別展の見学
第3回	見学実習② 特別展関連講座の参加
第4回	展覧会の準備・運営について
第5回	見学実習③ 東京国立博物館平常展の見学
第6回	東京国立博物館見学に関する意見交換
第7回	博物館資料の取扱と調査①(軸物)
第8回	博物館資料の取扱と調査②(軸物)
第9回	博物館資料の取扱と調査③(染織品)
第10回	博物館資料の取扱と調査④(染織品)
第11回	博物館資料の取扱と調査⑤(卷子)
第12回	七夕入札会見学の事前学習
第13回	見学実習④ 明治古典会七夕大入札会下見会の見学
第14回	入札会下見会見学の意見交換
第15回	前期のまとめ
第16回	夏季休暇課題の発表
第17回	夏季休暇課題のパネル化・パネル製作・展示
第18回	東京近郊寺院所蔵資料調査事前学習
第19回	見学実習⑤ 東京近郊寺院所蔵資料調査
第20回	展示資料の撮影見学事前学習
第21回	見学実習⑥ 展示資料の撮影見学
第22回	博物館資料の取扱と調査⑥(和綴本)
第23回	博物館資料の取扱と調査⑦(工芸品)
第24回	博物館資料の取扱と調査⑧(工芸品)
第25回	見学実習⑦ 近隣博物館の見学
第26回	見学実習⑧ 学習院大学史料館秋の特別展見学
第27回	公家装束の取扱いと展示
第28回	女房装束の取扱いと展示
第29回	公家・女房装束の調査
第30回	一年のまとめ

授業計画コメント

展覧会などの会期や収蔵先の都合などにより、授業内容の前後や時期の変更があります。

授業方法

講義形式と、グループ作業を織り交ぜて行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

適宜配布する崩し字資料を、各自解読した上で授業にのぞみ、基礎的な文字の習得を意識して必ず復習を行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	夏休みの課題レポートや見学会ごとに課す小さいレポートについて評価します。
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	授業参加・グループ作業の取り組みへの姿勢を評価します。
その他(備考欄を参照)	30 %	館園実習への取り組みの積極性・作業成果を評価します。

成績評価コメント

レポート: 展覧会におけるキャプション・図録解説を意識的に読み、自身が執筆する際、何に重点を置いたらよいかなど、人に読まれること・読んでもらうことを意識したレポートを作成すること。平常点: 出席は言うまでもないが、授業以外でも受講生が意識的に博物館・美術館へ足を運び、実地で見るという姿勢を評価します。その他: 館園実習での積極的な参加と、習得した技術・知識の習熟を評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートや毎回の感想などについて、全体で共有すべき事柄などについては、次回の講義の冒頭などで取り上げて理解を深める。

参考文献コメント

授業で適宜紹介します。

履修上の注意

必ず初回の授業に参加すること。

その他

履修に際しては、通年授業の他に、学芸員課程事務室主催のガイダンスへの出席及び館園実習への参加が義務となっているので、留意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920108103	科目ナンバリング	U920108103
講義名	博物館実習（学芸員）		
副題	歴史系博物館の実務		
英文科目名	Museum Practice		
担当者名	柳沼 千枝.岩壁 義光		
単位	3	配当年次	学部 4年
時間割	第1学期 月曜日 4時限 西2－405.第2学期 月曜日 4時限 西2－405		

授業概要

歴史系博物館における学芸員活動の実務を習得する。歴史系博物館の学芸員として必要な実務的基礎知識、および基礎技術の習得を目指すとともに、学芸員が果たすべき社会的責務・役割などについて、ともに考えてゆく機会とする。第1学期では、学芸員諸活動の概要と歴史系博物館の置かれている現状について考察するとともに、資料の取り扱い方法の基本や収集・整理、展示方法を実践的に学ぶ。第2学期では模擬展示を計画・開催することで、歴史系博物館における展示会の立案から実施までのカテゴリールと実務について学ぶ。授業は、受講者をいくつかのグループに分け、実習・報告・討論を中心として進める。

到達目標

博物館の展示について、主催者の視点で評価することができるようになる。
 資料に対する心構えを習得し、資料の特性に応じた観察・取り扱いができるようになる。
 展示の原理・展示会開催の基礎知識を理解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:授業の進め方、自己紹介など
第2回	ある学芸員の一日:博物館における学芸員の業務についての考察と、学芸員を目指す心構えについて
第3回	歴史系博物館の仕事:他の館種との比較を通じた、歴史系博物館の特質と事業の実際
第4回	歴史系博物館における展示:歴史系博物館における資料の特性と、それに基づく展示方法の実際、館園実習の心構え
第5回	見学実習①:地方公共団体の設置する歴史博物館の企画展示室とバックヤードの見学を通じて知る博物館の現場と、展示の評価レポート
第6回	資料の取り扱い①(卷子):資料取り扱いの基本についての身支度・心構えや、卷子本各部の名称、取り扱いの方法・手順の習得
第7回	資料の取り扱い②(卷子):卷子本の取り扱いについて、各部の名称、取り扱いの方法・手順の習熟と、資料の観察
第8回	資料の取り扱い③(掛軸):掛軸各部の名称、取り扱いの基礎的方法・手順の習得
第9回	資料の取り扱い④(掛軸):掛軸各部の名称、取り扱いの応用的方法・手順の習得
第10回	見学実習②:企業博物館の見学。企業博物館運営の特性と、博物館におけるライブラリーの機能について理解を深める
第11回	調書の作成①:調書を取る際の調査項目や実測・記述の仕方と資料の観察方法
第12回	調書の作成②:資料の観察方法と資料調書の作成
第13回	博物館資料の収集・貸借:博物館資料の収集手続きと資料台帳の作成、貸借手続きと借用資料調書の作成
第14回	第1学期授業のまとめ
第15回	第1学期授業の振り返り
第16回	オリエンテーション:自己紹介、授業の進め方など
第17回	特別展の準備と開催(講義)、模擬展示資料について
第18回	模擬展示会展示計画、役割分担
第19回	資料解説報告1
第20回	資料解説報告2
第21回	展示資料選定、展示会テーマ決定
第22回	特別展見学 学芸員の視点から特別展を見学
第23回	ポスター等配布物案検討
第24回	解説文検討1
第25回	解説文検討2、印刷物確認
第26回	解説文印刷・確認
第27回	展示準備
第28回	展示実習1
第29回	展示実習2
第30回	模擬展示会の総括と講評

授業方法

実習という性格上、積極的な受講の姿勢が必要である。
第1学期は柳沼千枝講師が担当し、講義形式で学芸員諸活動の概要と歴史系博物館の置かれている現状について考察するとともに、グループに分かれて資料の取り扱い方法や収集・整理、展示方法の基本を学ぶ。第2学期は岩壁義光講師が担当し、模擬展示会を計画・開催することで、歴史系博物館における展示会開催の立案から実施までのカテゴリーと実務について学ぶ。また、資料調査方法のほか資料撮影・梱包など資料取り扱いの応用を学ぶ。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

第1学期:授業時のノートや配布プリントを、自宅で復習しておくこと(計約10時間)。館園実習や見学実習に際しては、事前に年報等実習先館園の情報を入手し、設置目的・活動理念・事業実績について理解しておくこと(5～6時間×3館園)。見学実習①においては、当日のノートをもとに学芸員の視点をもって自宅でレポートを作成すること(7～8時間)。
第2学期:展示準備上で文献調査などの事前準備や自宅作業が必要となる。また、グループ作業が加わるのでグループ内の緊密な連絡が不可欠である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	10 %	見学実習にともなうレポートを課し、着眼点・表現力等を評価する(第2学期は提出必須)。
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	作業への参加姿勢や取り組み、第1学期においては資料取扱いの習熟度、第2学期においては模擬展示の成果度を総合評価する。
その他(備考欄を参照)	10 %	館園実習への取り組みの積極性、作業の成果等を評価する。

成績評価コメント

第1学期では作業実習に取り組む姿勢―積極性や習熟への努力、グループワークにおける協力度を評価する。資料の取り扱いについては自ら多くの練習機会を作るよう努めること、作業や見学に積極的に取り組み、学芸員の視点を磨くことを目指してもらいたい。
第2学期は実習前の事前準備・課題の解決度など、グループ作業における自己に負わされた責任の完成度、実習への取り組み姿勢を重視する。
第2学期は展示実習を行う。実習は受講生による主体的な企画・展示作業で行うので、実習参加姿勢と成果が評価となる。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

第1学期は実習におけるフィードバックは各授業時間内の講評時に行う。レポートについてはコメントを付して返却する。
第2学期は実習におけるフィードバックは講評時に行う。また、レポートについてはメールにて評価通知する。

参考文献コメント

第1学期の博物館の現状に関する参考文献、第2学期の調査に関する参考文献は授業内で紹介する。

履修上の注意

第1学期・第2学期とも初回の授業に必ず出席のこと。

その他

履修に際しては、通年授業の他に、学芸員課程事務室主催のガイダンスへの出席及び館園実習への参加が義務となっているので、留意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920108104	科目ナンバリング	U920108104
講義名	博物館実習（学芸員）		
副題	博物館・美術館の活動		
英文科目名	Museum Practice		
担当者名	柳澤 恵理子・池田 宏		
単位	3	配当年次	学部 4年
時間割	第1学期 土曜日 2時限 西1－213・第2学期 土曜日 2時限 西1－213		

授業概要

資料の取り扱い、資料の撮影、展示制作、作品解説の書き方など、実践的な内容を中心に行う。特に第1学期は、各館園実習先での実習内容の吸収率を高めるため、出来る限り早い時期に基礎技術を身につける。第2学期は、資料の取り扱い、梱包などの実習や展覧会の開催について講義を行う。

到達目標

博物館・美術館勤務において必要となる各種技術の習得と、多岐にわたる学芸員の仕事への理解を深めることを目標とする。さらに、博物館の現場で学芸員として即戦力となるような知識と技術の養成を到達目標としたい。

授業内容

実施回	内容
第1回	第1学期オリエンテーション：第1学期の授業の進め方、自己紹介
第2回	講義①学習院の歴史について 見学①学習院大学史料館の展示を見学
第3回	講義②日本の古美術品について
第4回	資料の取り扱い①（掛軸）
第5回	資料の取り扱い②（卷子）
第6回	資料の取り扱い③（茶道具）
第7回	資料の取り扱い④（屏風）
第8回	調書の書き方と写真撮影の仕方について
第9回	見学②大学近辺の博物館を見学
第10回	講義③学習院大学史料館で開催した展覧会について
第11回	展示制作①「展覧会企画案」の作成
第12回	展示制作②資料の選定と撮影
第13回	展示制作③作品解説の執筆
第14回	展示制作④作品解説の執筆
第15回	展示制作⑤展示設営
第16回	第2学期オリエンテーション：第2学期の授業の進め方
第17回	文化財の種類
第18回	陶磁器の取り扱い
第19回	漆工品の取り扱い
第20回	染織品の取り扱い
第21回	史料館の展覧会の見学
第22回	刀剣の取り扱い
第23回	甲冑の取り扱い
第24回	作品の梱包①
第25回	作品の梱包②
第26回	作品の梱包③
第27回	東京国立博物館の見学
第28回	特別展の計画・開催
第29回	海外展、第2学期のまとめ
第30回	予備日

授業方法

第1学期の授業は柳澤恵理子講師が、第2学期は池田宏講師が担当する。講義とグループワークをおりまぜながら進める。また、時間を調整して展覧会見学を行う時がある。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

興味のある博物館や美術館に行くこと(1時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	20 %	授業内容の理解
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	積極性、出席状況、技術、理解度、意欲を総合的に評価する。
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは評価したうえで本人に返却する場合もある。

参考文献

博物館資料取扱いガイドブック-文化財、美術品等梱包・輸送の手引き-, 日本博物館協会, ぎょうせい, 改訂, 2016, 9784324101599

参考文献コメント

各種展示図録など。また必要に応じて指示する。

履修上の注意

第1学期、第2学期とも第1回目の授業に必ず出席のこと。

その他

履修に際しては、通年授業の他に、学芸員課程事務室主催のガイダンスへの出席及び館園実習への参加が義務となっているので、留意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920108105	科目ナンバリング	U920108105
講義名	博物館実習（学芸員）		
副題	歴史系博物館活動の実務		
英文科目名	Museum Practice		
担当者名	齋藤 慎一		
単位	3	配当年次	学部 4年
時間割	通年 金曜日 1時限 中央－402		

授業概要

歴史系博物館の活動について、実践的に理解することをめざす。史資料の収集整理保管から常設展および特別展の実務に至るまでの、多様な学芸員活動のあり方を具体的に示し、博物館学芸員として働き始めるために必要な実務的基礎知識および基礎技術の習得を目的とする。第1学期は史資料の扱いを中心に実習し、第2学期は展覧会を制作するさまざまな事項について実習する。また屋内に展示する博物館だけでなく、屋外展示のあり方も視野に含めて考えたい。

到達目標

博物館学芸員の業務を理解し、自ら考え、業務を組み立てられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	講義概要解説:年間の講義について、主旨や流れなどの概略を示す。
第2回	資料収集(1):資料購入の流れについて、事例により理解する。
第3回	資料収集(2):資料寄贈の流れについて、事例により解説し、受贈の際の聞き取り調査について模擬的に実習する。
第4回	資料収集(3):複製資料製作について概略を講義し、ビデオ・写真などから実例を理解する。
第5回	資料の取扱(1):箱の紐の取り扱い実習。
第6回	資料の取扱(2):掛幅の取り扱い実習。
第7回	資料の取扱(3):巻子の取り扱い実習。
第8回	資料の取扱(4):刀剣の取り扱い実習。
第9回	資料の取扱(5):屏風の取り扱い実習。
第10回	資料管理(1):資料情報管理について、必要項目を検討し、分類する。
第11回	資料管理(2):資料整理実務:資料カードの作成を行う。
第12回	資料管理(3):収蔵について、梱包具や収蔵庫の実際を理解する。
第13回	資料管理(4):収蔵について、収蔵庫を見学する。
第14回	歴史系博物館を見学:バックヤードおよび展示室などを視察する。見学後、レポートを課す。
第15回	写真撮影:撮影の実務を行う。
第16回	実習報告:博物館での実習体験を報告する。
第17回	展示(1):展示企画について、企画書を作成する。
第18回	展示(2):展示資料リストのフォーマットを検討し、作成する。
第19回	展示(3):借用交渉の実務を理解する。
第20回	展示(4):借用の実務を理解する。
第21回	展示(6):借用時の調書(コンディションレポート)を作成する。
第22回	展示(7):キャプションを作成する。
第23回	展示(8):個々に作成したキャプションの品評会およびバックヤードのあり方を検討する。
第24回	展示(9):展示計画(展示予定図面)を作成する。
第25回	展覧会広報:広報を計画し、ポスターのラフを作成する。
第26回	展覧会図録:図録構成を立案し、台割りを行う。
第27回	野外展示:建物の移築復元と展示について概要を把握する。
第28回	屋外型の博物館を見学:屋外展示の実際を把握する。見学後、レポートを課す。
第29回	授業の総括
第30回	到達度確認

授業計画コメント

第1学期は資料の取り扱いを中心に進め、第2学期は展示の企画および実施について取り扱う。年間を通して博物館での実務に対する理解を深める。特に第2学期の授業では各自が企画展のプランを作成し、年度末課題として提出する。

授業方法

授業方法

講義および実習を行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

シラバスおよび次回授業内容予告に基づき、学芸員が行う作業内容を事前に検討する。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	レポート3回と年度末の課題
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	出席
その他(備考欄を参照)	10 %	博物館実習ノート

成績評価コメント

各レポートは10%。年度末の課題は50%とする。
自身の検討による考察や、創意・工夫がどの程度なされているかが重要点。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

見学実習のレポートについては、授業のなかでポイントを振り返る。夏期レポートは2学期の授業時にコメントを加える。

参考文献コメント

授業中に適宜提示する。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。2学期については授業内容が年度末課題の作成そのもののため、欠席した内容はできるだけ把握し、不明な点は確認すること。

その他

履修に際しては、通年授業の他に、学芸員課程事務室主催のガイダンスへの出席及び館園実習への参加が義務となっているので、留意すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920108107	科目ナンバリング	U920108107
講義名	博物館実習（学芸員）		
副題	歴史系博物館学芸員の基礎知識		
英文科目名	Museum Practice		
担当者名	渋谷 葉子		
単位	3	配当年次	学部 4年
時間割	通年 木曜日 2時限 西1－204		

授業概要

さまざまな史料の取り扱いや調査・整理・保存・活用・研究の方法など、歴史系博物館の学芸員に必要とされる基礎的な知識、技術、倫理を修得することを目的とする。

到達目標

さまざまな史料の取り扱いを身につける。
江戸時代史料のくずし字と内容の解読の方法を習得する。

授業内容

実施回	内容
第1回	オリエンテーション:授業の進め方・自己紹介・授業に臨む際の心構えと注意事項の確認など
第2回	歴史系博物館の機能と学芸員の実務:「博物館とは？」―機能と学芸員の実務を、既修科目を踏まえて再確認する
第3回	見学実習①学習院大学史料館の見学:学習院大学史料館の展覧会とバックヤードを見学して、展示製作等の実際を学ぶ
第4回	資料の取り扱い①:掛軸について、部位の名称を学び、取り扱い方法を個々が実践・体得する
第5回	資料の取り扱い②:掛軸について、部位の名称を学び、取り扱い方法を個々で実践・体得する
第6回	資料の取り扱い③:卷子について、部位の名称を学び、取り扱い方法を個々で実践・体得する
第7回	資料の取り扱い④:卷子について、部位の名称を学び、取り扱い方法を個々で実践・体得する
第8回	資料の取り扱い⑤:茶器について、付属品等の名称を学び、取り扱い方法を個々で実践・体得する
第9回	資料の取り扱い⑥:茶器について、付属品等の名称を学び、取り扱い方法を個々で実践・体得する
第10回	資料の取り扱い⑦:掛軸・卷子・茶器の取り扱いのまとめ
第11回	見学実習②公益財団法人徳川黎明会徳川林政史研究所の見学:同研究所の歴史から所蔵史料のあり方や現在の活動(史料の整理・調査・保存)を学ぶ
第12回	江戸時代の史料(古文書)①:江戸時代の史料に関する概説と取り扱い方の説明
第13回	江戸時代の史料(古文書)②:江戸時代のいろいろな形態の古文書について(状・冊・鋪等)、実際に取り扱い方を実践・体得する
第14回	江戸時代の史料を読む①:「くずし字辞典」の引き方を修得する
第15回	第1学期の総括
第16回	展示製作①:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(企画立案)
第17回	展示製作②:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(企画立案)
第18回	展示製作③:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(史料研究)
第19回	展示製作④:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(史料研究)
第20回	展示製作⑤:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(史料研究)
第21回	展示製作⑥:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(史料研究)
第22回	展示製作⑦:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(史料研究)
第23回	展示製作⑧:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(史料研究)
第24回	展示製作⑨:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(史料研究、解説・キャプション作成)
第25回	展示製作⑩:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(史料研究、解説・キャプション作成)
第26回	展示製作⑪:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(解説・キャプション作成、ディスプレイ案作成)
第27回	展示製作⑫:学習院大学史料館所蔵「町田家文書」のミニ展示を製作する(ミニ展示設営、ギャラリートーク形式の発表会)
第28回	館園実習報告会:受講者個々の館園実習についての報告および質疑・応答
第29回	1年間の総括
第30回	自由研究

授業計画コメント

学生の理解や習得の度合い、その他の諸条件に応じて内容およびスケジュールを変更する場合がある。

授業方法

資料の取り扱いに関しては学生個々の実演形式で、展示製作に関しては数名のグループ形式で、それぞれ行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

日頃よりできるだけ多く博物館等に足を運ぶこと。
またくずし字解説に関しては、課題が解決するまで時間を割くこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	0 %	
学年末試験(第2学期)	0 %	
中間テスト	0 %	
レポート	10 %	施設見学に際して課す
小テスト	0 %	
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)	30 %	出来映えに対して評価する

成績評価コメント

試験は行わない。平常点(クラス参加、グループ作業の成果等)を評価の基本とする。その上で学生個々が課された課題に、忠実、積極的かつ意識的に取り組んでいるかを特に重視する。 詳細は第1回目授業時に説明するので必ず出席すること。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

必要に応じて授業時間内に行う。

教科書コメント

授業時に指示する。

参考文献

くずし字解説辞典,児玉幸多編,東京堂出版
くずし字用例辞典,児玉幸多編,東京堂出版

参考文献コメント

上記のほか、随時紹介する。

履修上の注意

特別な理由がある場合以外、欠席・遅刻は認めない。なお欠席が予定されている場合は事前に申し出ること。

その他

履修に際しては、通年授業の他に、学芸員課程事務室主催のガイダンスへの出席及び館園実習への参加が義務となっているので、留意すること。
教員との連絡が必要な場合は授業時に行うこと。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920200101	科目ナンバリング	U920200101
講義名	文化史特殊講義（学芸員）		
副題	アジア文化の起源と展開		
英文科目名	Cultural History		
担当者名	金 寅圭		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 月曜日 1時限 中央－302		

授業概要

主にアジアの造形文化の歴史を辿り、作品の紹介と考察を通してアジアの文化についての理解を深めていきます。

到達目標

アジア文化の理解を通じて、各自が柔軟で新しい世界観を構築する。

授業内容

実施回	内容
第1回	アジア文明の誕生と殷代の文化
第2回	漢代の文化とその影響
第3回	漢代の工芸
第4回	魏晋南北朝時代の文化とその影響
第5回	アジアの仏教文化
第6回	アジアの古墳文化
第7回	唐代の文化とその影響
第8回	唐代の絵画
第9回	唐代の工芸
第10回	唐代の陶磁器
第11回	宋代の文化とその影響
第12回	宋代の絵画
第13回	宋代の工芸
第14回	理解度の確認
第15回	振り返り
第16回	アジアの梵鐘
第17回	元代の文化とその影響
第18回	元代の絵画
第19回	元代の工芸
第20回	元代の青花磁器の誕生
第21回	明代の文化とその影響
第22回	明代の絵画
第23回	明代の陶磁器
第24回	清代の文化とその影響
第25回	清代の絵画
第26回	清代の陶磁器
第27回	アジアの近代文化の展開
第28回	アジアの近代文化とArt Nouveau・Art Deco
第29回	理解度の確認
第30回	振り返り

授業方法

講義形式

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

授業で紹介する参考文献のほか、アジア文化に関する基本的な図書や論文などに目を通して理解を深める。また、展覧会等でアジア文化に触れることも望みます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	30 %	
学年末試験(第2学期)	30 %	
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	10 %	
その他(備考欄を参照)		

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業内で、レポートについてのフィードバックを行う。

参考文献

世界美術大全集:東洋編 1-18,小学館,1997-2001
 東洋美術史,前田耕作など,美術出版社,2000

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920201101	科目ナンバリング	U920201101
講義名	資・史料整理法（学芸員）		
英文科目名	Survey of Historical Source		
担当者名	田中 潤		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 金曜日 2時限 西2－505		

授業概要

博物館・美術館に收藏される作品群(博物館資史料)をより良い形で後世に伝えていくためには、まず適切な整理が必要であり、その整理には作品やそれが使われてきた背景に対する理解が不可欠です。この授業では、資史料整理を行う上で必要となる知識と・技術の習得と共に、情報として重要な、箱書き・附属文書に見られる崩し字を解読するための学習を行います。

到達目標

資史料整理に必要な、基礎的な知識を正確に習得し、併せて崩し字解読の基礎的な知識を身に付け、実際の調査に役立つ力を身に着けることを目標とします。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス
第2回	博物館資史料の多様性
第3回	崩し字資料の学習について
第4回	現状記録について
第5回	資史料の保存器材について
第6回	收藏品台帳と記載事項について
第7回	学習院大学史料館春季特別展の見学
第8回	特別展関連行事の見学
第9回	特別展見学の意見交換
第10回	近郊博物館美術館の見学
第11回	崩し字の小テスト
第12回	七夕入札会の事前学習
第13回	七夕入札会の見学
第14回	七夕入札会の事後学習・意見交換
第15回	前期のまとめ
第16回	夏季休暇レポートの発表①
第17回	夏季休暇レポートの発表②
第18回	夏季休暇レポートの発表③
第19回	古文書の目録作成実習
第20回	資史料の撮影見学
第21回	軸装資料の調査①
第22回	軸装資料の調査②
第23回	都区内所在寺院收藏資料調査事前学習
第24回	都区内所在寺院收藏資料調査
第25回	都区内所在寺院收藏資料調査事後意見交換
第26回	学習院大学史料館秋季特別展の見学
第27回	染織資料の取扱①(公家装束)
第28回	染織資料の取扱②(女房装束)
第29回	染織資料の調査
第30回	一年のまとめ

授業計画コメント

展覧会などの会期や收藏先の都合などにより、授業内容の前後や時期の変更があります。

授業方法

講義形式と、グループ作業を織り交ぜて行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

適宜配布する崩し字資料を、各自解読した上で授業にのぞみ、基礎的な文字の習得を意識して必ず復習を行うこと。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	展覧会見学の際などに複数回課します。
小テスト	20 %	崩し字の理解の深まりを確認します。
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	出席・授業態度等取り組み・授業の感想などを総合的に評価します。
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

レポート:自身で疑問点・着目点を定め、見学を通じてそれぞれの解決、理解の深化がはかれているかを評価します。小テスト:崩し字学習の教室以外での復習・予習などの成果を確認します。平常点:出席と共に、積極的な取り組み姿勢を評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

提出されたレポートや毎回の感想などについて、全体で共有すべき事柄などについては、次回の講義の冒頭などで取り上げて理解を深める。

参考文献コメント

講義時に適宜紹介します。

履修上の注意

必ず初回の授業に参加すること。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920203101	科目ナンバリング	U920203101
講義名	民俗学特殊講義（学芸員）		
副題	自らの内にある民俗を見つめる		
英文科目名	Folklore Studies		
担当者名	長佐古 真也		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	通年 土曜日 1時限 中央－303		

授業概要

普段、なにげなく行われている慣わしに眼を向けることで、各自が自らを省みる。こうした民俗学の視点を理解し獲得することが授業のねらいです。したがって、その内容は、多岐にわたる民俗学の到達点を知識として紹介することよりも、いくつかの限られたテーマに沿いながら、実際に皆さんの身の回りのことについて考えることを主眼に授業を進めます。また、こうした作業を通して、自らの見解を示す際の留意点などについても学ぶことを目指します。

到達目標

柳田国男の言う「自己内省」の理解・実践を通して、民俗展示を考案する上での方向性はもちろん、自分自身を捉える上での新たな視点の獲得を目指します。

授業内容

実施回	内容
第1回	ガイダンス、「内省」・「実学」としての民俗学、教室アンケート1
第2回	「MINZOKU」ってなんだ／「民俗」のイメージ、典型的な民俗にふれる
第3回	「MINZOKU」ってなんだ／若者と民俗、私たちは古いしきたりとは無縁なのか
第4回	「MINZOKU」ってなんだ／民俗の諸相、私たちが持つ「民俗」
第5回	柳田国男と民俗学／「郷土生活の研究」について
第6回	柳田国男と民俗学／柳田民俗学の方法と特色 教室アンケート2
第7回	柳田国男と民俗学／柳田に学ぶべきこと
第8回	器の世界／私たちの食生活を見つめ直す
第9回	器の世界／私たちの食生活の中にある「不審」を探る
第10回	器の世界／「ワン」の歴史を探る
第11回	器の世界／史料としての「ワン」
第12回	器の世界／お茶の民俗学
第13回	器の世界／お酒の民俗学
第14回	器の世界／「食べる」ことに込められた意味を考える
第15回	1学期総括
第16回	改めて、自らの内にある民俗という視点について考える
第17回	生死観と民俗／「死者」という言葉、「人生儀礼」という民俗
第18回	生死観と民俗／私たちの葬送観
第19回	生死観と民俗／葬式の風景
第20回	生死観と民俗／葬送にまつわる民俗
第21回	生死観と民俗／墓ってなんだろう、両墓制について
第22回	生死観と民俗／南西諸島の墓制
第23回	生死観と民俗／お墓の歴史
第24回	生死観と民俗／お墓の将来と私達
第25回	民具の資料論／なぜ「民具」を扱うのか、渋沢敬三のまなざし
第26回	民具の資料論／「民具学」の枠組みと「民具」の定義
第27回	民具の資料論／「民具」から見た現代、そして将来
第28回	未来を見つめる眼／民芸運動と考現学 ～視点の展開
第29回	未来を見つめる眼／「二十五箇年後」について考える
第30回	2学期総括

授業計画コメント

進捗の都合で、各回の内容が前後することがあります。

授業方法

講義形式で行いますが、随時、視聴覚教材を用いたり、教室アンケートを行い、その結果をフィードバックしたりします。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

資料が事前に配布された時は必ず目を通しておいて下さい。自己内省の観点から、主として当日の講義内容の復習に重点をおいて下さい。(約30分)またレポートに向けて、普段から自身の身の回りや習慣について見つめ直す事を心掛けて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	80 %	各学期末(計2回)のレポート
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	20 %	アンケート提出状況・出席票裏のコメント内容
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

主に各学期末頃に提出していただく計2回のレポート(自らの内にある民俗やそれに基づく自己内省に関する内容)で評価しますが、講義内で課すアンケートの提出状況や出席票裏に記されたコメントの内容等を加味する場合があります。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

アンケート内容については、講義資料に反映させます。また、内容を共有すべきコメントについては、後の講義で紹介し、教室全体で共有します。

教科書コメント

独自の内容が多いため、配布資料を中心に進めます。

参考文献コメント

参考文献についても、配布資料中でご案内します。

その他

独自の内容を多く盛り込んで講義を進めるため、きちんと出席していないとレポートの課題趣旨を理解するのが難しくなります。土曜の朝1限の講義ですが、頑張って参加して下さい。第1回目のガイダンスは重要な留意事項について案内しますので、可能な限り出席して下さい。

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>

講義コード	U920204101	科目ナンバリング	U920204101
講義名	自然科学史(学芸員)		
副題	文化或いは社会現象としての科学		
英文科目名	Natural Science History		
担当者名	奥村 大介.廣野 喜幸		
単位	4	配当年次	学部 2年～4年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 南3－202.第2学期 木曜日 4時限 南3－202		

授業概要

本講義では自然科学史を概観しながら、興味ある視点から自然科学史を捉えなおし、自然科学史の理解を深め、その奥深さを味わうことを目指します。1学期は、古代から17世紀頃までの歴史を鳥瞰し、人類文化の全体のなかで「自然に関する知識」が占めてきた位置価の変遷をたどります。2学期は、まず、17世紀までの自然科学史を復習した上で、自然科学史における最大の出来事である、16～17世紀の近代自然科学の誕生、すなわち、「科学革命」について、論じます。そして、それ以降の歴史を辿った上で、自然科学史を社会現象として再考します。

到達目標

現在の私たちが思い浮かべるような専門家としての「科学者」が現れたのは18世紀後半以降のことです。つまり、現在の自然科学とほぼ等質な存在として遡れるのは18世紀後半までになります。では、それ以前の「科学」とはどのようなものであり、その担い手はどのような人々だったのでしょうか。近代に先立つ時代にあって、今日の科学に相当する「自然に関する知識」は、神話、哲学、神学、宗教、文学、美術、音楽、魔術、錬金術、占星術、建築、等々、さまざまな文化の形をとっています。したがって、17世紀までの自然科学史を通じて、私たちの文化の豊かな複雑さを体感することが1学期の到達目標になります。18世紀後半以降は、文化としての側面もさることながら、社会全般に対する影響を大きくしていき、よくも悪くも社会現象となります。2学期の到達目標は、善悪2面性をもった「ヤムス」として自然科学に対する理解を深めることになります。

授業内容

実施回	内容
第1回	序論
第2回	自然を語る者たち——根源の探求、原子論、機械論、体液理論、医学の誓い
第3回	プラトン——宇宙創造論、存在の階梯、幾何学とイデア
第4回	アリストテレス——運動と時間、物質の性質、自然の三界
第5回	アレクサンドリアのムセイオン——大図書館、天体の円運動、人体解剖、ヒュパティアの死
第6回	ヘレニズムとヘブライズム——合理性、自由意思、啓示
第7回	ローマ科学——ウァッロの学問論、星をみるキケロとセネカ
第8回	中世アラビア世界——知恵の館、翻訳文化、空中浮遊人間論
第9回	中世西欧(1)——写本文化、十二世紀ルネサンス、インペトゥス理論
第10回	中世西欧(2)——大学の成立、神学部と学芸学部、異端審問
第11回	前ルネサンス——中世の秋、ペスト大流行、死の舞踏、ダンテの『神曲』
第12回	ルネサンスの知と魔術——1543年という奇跡の年、建築の修辞学、ルドルフ二世
第13回	錬金術と万有引力——隠れた性質、不可秤量流体、精気と蒸留
第14回	十七世紀科学革命——コスモスの崩壊、円環の変貌、動物靈魂、科学におけるバロック
第15回	1学期の総括
第16回	科学成立の社会的条件(1) ——古代ギリシャと近代西洋科学
第17回	科学成立の社会的条件(2) ——中世における自然研究
第18回	科学革命(1)——十七世紀の天文学革命・力学革命
第19回	科学革命(2)——十八世紀の化学革命と物理学の進展
第20回	科学革命(3)——十九世紀の生物学革命:細胞説
第21回	科学革命(4)——科学革命再考: 西洋科学科学革命とは何だったのか——科学革命成立基盤に関する諸説の検討
第22回	第二の科学革命——十九世紀における科学の制度化
第23回	現代科学の誕生——二十世紀における科学と国家
第24回	科学機器の歴史——「もの」のもつ知識
第25回	数量化とは何か——社会改良の科学
第26回	図像と科学(1)
第27回	図像と科学(2)
第28回	図像と科学(3)
第29回	図像と科学(4)

授業方法

8割ほどは通常の講義形式。2割ほどはディスカッション形式を取り入れる。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

1学期は予習は不要であるが、復習として授業内で紹介した史料や参考文献のなかで通読に値するテキストを邦訳で指定するので、それに目を通すようにしてほしい(2～3時間ほど)。2学期は小レポート作成が予習となる(1～2時間ほど)。講義で使用したパワーポイントファイルを、講義後配布する。それによって復習する(1時間ほど)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	75 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	25 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

1学期はレポート(40%)とリアクション・ペーパー(10%)。2学期はレポート(35%)と小レポート(15%)。レポートは授業内容の理解度と、授業内容から皆さんが考察したことや発展的に学習した内容を評価する。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

課題提出後、適当な講義において、フィードバックする。

教科書コメント

本講義に適した一冊の教科書は存在しない(現在、作成中)なので、使用しません。資料を配布する。

参考文献

図説科学史入門,橋本毅彦,ちくま新書,1,2016
 科学の真理は永遠に不変なのだろうか,中根美千代ほか,ベレ出版,1,2009
 近代科学の源流,伊東俊太郎,中公文庫,1,2007
 十七世紀科学革命,ヘンリー,岩波書店,1,2005
 科学の社会史,古川安,ちくま学芸文庫,1,2018

参考文献コメント

この他にも多くの文献・映像作品を授業内で案内します。

履修上の注意

1学期は奥村が、2学期は廣野が担当します。特別な前提知識は必要としません。科学も含めて人間の文化・文明にたいする好奇心と批判精神をもって日常のさまざまな出来事に接し考えることが準備学習となるはずです。

その他

質問は授業中や授業前後に直接、あるいは電子メールで随時受け付けます。
 メールアドレス:okumuradaisuke1884[at]gmail.com(奥村);chiro@mai.ecc.u-tokyo.ac.jp(廣野)

カリキュラムマップ

以下URLを参照<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/life/curriculummap.html>